

2022年(令和4年)12月10日(土) 中日新聞 掲載

音声アプリで楽に歩行

外宮近くで視覚障害者向け実証実験

音声アプリで楽に歩行

外宮近くで視覚障害者向け実証実験



スマートフォンを首から下げながら実証実験を行う参加者(左)=伊勢市本町の伊勢神宮外宮参道で

スマートフォン音声案内アプリを使って視覚障害者に観光を楽しんでもらう実証実験が9日、伊勢市の伊勢神宮外宮近くであった。

同市が障害者の観光を支援しているNPO法人「伊勢志摩バリアフリーツアースセンター」(鳥羽市)に同事業を委託。北九州市の情報サービス会社が開発した

アプリ「アイナビ」を使用した。

アプリはスマートフォンでカメラで写したものを人工知能(AI)が認識し、障害物や信号機の色、進行方向などを音声や効果音で知らせる。実証実験では、視覚障害のある六人が、アプリがインストールされたスマートフォンを首から下げ、伊勢市駅から伊勢神宮外宮手前の観光案内所までの約四百メートルを歩いた。

参加者が観光案内のポイントに来ると効果音が鳴り、立ち止まると、同市本

町の菊一を「伊勢の老舗の刃物店」、山村みるくがっこうを「瓶入りのプリンの上にソフトクリームがのった山村プリンソフトが人気」などと紹介する音声があった。

その後、市やNPOの職員、アプリ開発会社の社員と参加者の意見交換が、同市岩淵のいせシティプラザであった。参加者からは「観光施設の案内の位置が実際よりも手前だった」「音声案内が終わったことを分かるようにしてほしい」などの意見が出た。

参加した伊勢市辻久留の村田守さん(70)は「まだアプリを使っただけの旅行は、誰かと一緒に行かないと怖い。しかし、視覚障害者向けのアプリを開発してくれることはうれしい」と話した。

(外山矩実)

視覚障害者の観光支援

スマホで音声案内 伊勢市が実証実験

視覚障害者の観光支援



胸元に下げたスマートフォンからの音声ガイドを聞きながら散策する参加者＝伊勢市で

スマホで音声案内 伊勢市が実証実験

【伊勢】スマートフォンアプリを使って視覚障害者の観光を支援する取り組みの実証実験が9日、伊勢市の伊勢神宮外宮周辺の外宮参道で開かれた。視覚に障害がある参加者らが、音声で歩行をサポートする専用アプリを使い、まち歩きを体験した。

(橋本綾)

実証実験は、市がNPO法人伊勢志摩バリアフリーツアーセンターに委託して実施。「コンピュータサイエンス研究所」(福岡県)

が開発を進める視覚障害者向けのアプリ「アイナビ」を活用した。アプリは、GPSを使って利用者の現在地を把握。目的地などを入力すると、進行方向や横断歩道などの情報を音声で知らせて案内する。また、スマホのカメラでとらえた画像から、AIが進路上の障害物や歩行者信号の色などを検出して知らせる。今回は実証実験用に、参道沿いの四つの店舗と、五方所の観光情報を

音声案内に盛り込んで体験してもらった。この日は視覚障害者と車イス使用者ら七人が参加。伊勢市駅前から、専用ケースに入れたスマホを胸元に下げて歩き、「横断歩道を渡ります」といった歩行上の注意と、店舗紹介や観光情報の音声案内を聞きながら、外宮前までの通りを散策した。

体験後、参加者らは「観光案内にズレがあった」「案内の終わりを知らせてほしい」「技術の開発が進むのはうれしい」など意見を述べた。市観光振興課の東良二係長は「視覚障害者の観光を楽しみたいというニーズは高い。ハード面の整備と共に、ソフト面での支援として、デジタルツールを活用した(誰もが旅を楽しめる)ユニバーサルツーリズムを推進していきたい」と話していた。

伊勢市 歩行支援アプリ 実証実験

視覚障害でも楽しく観光

障害物や信号 音声で案内

伊勢市 歩行支援アプリ 実証実験

視覚障害のある人の観光の質を高めてもらおうと、歩行支援アプリ「アイナビ」を使った町歩きの実証実験が9日、伊勢市の外宮参道であった。

視覚障がい者6人がアプリを使ってJR伊勢市駅から伊勢神宮外宮まで続く外宮参道(約500㍍)を歩き、課題を探った。【小沢由紀】

視覚障害でも楽しく観光

歩行支援アプリ「アイナビ」はコンピュータサイエンス研究所(本社・福岡県)が来春のリリースを目指して開発を進めるスマートフォンアプリ。AIがカメラの映像から歩行者信号の色や進路上の障害物などを検出し、経路案内とともに音声で知らせる。視覚障がい者が盲導犬や介添え者なしでも安心して歩けるシステムを目指している。

誰もが暮らしやすい街づくりを目指す伊勢市は、多様なバリアフリー観光に対応しようと取り組んでいる。今回はNPO法人伊勢志摩バリアフリーツアースタターに委託して実証実験を行った。



カメラを前方に向けて胸の高さでスマホをセットした視覚障がい者(左)と介添え者—伊勢市の外宮参道で

障害物や信号 音声で案内

実証実験では、経路案内に加え、外宮参道の観光情報も盛り込んだ。参加した視覚障がい者は、胸の高さにスマホをセットし、進行方向に向けてカメラで撮影しながら歩いた。歩を進めると、カメラで認識した画像からアプリが障害物や信号などを検出し、信号が近づくと電子音で音声を知らせた。

市観光振興課の東良二観光企画係長は「視覚障がい者の旅行ニーズは高いものの、一人で行くには不安も多い。今回の実証実験で得た意見から、少しでも旅を楽しんでもらえるようソフトとハードの改善につなげて、ユニバーサルツーリズムが当たり前になるように取り組んでいきたい」と話していた。

らせ、横断歩道が近づくと音声で「横断歩道があります」などと案内。観光地やお店の情報も音声で伝えた。

実験の後、参加した視覚障がい者からは「我々は声を頼りに生きていますので、電子音だけでなく言葉で案内してほしい」「横断歩道までどれぐらいの距離があるのか、案内のタイミングが分かりづらい」など多くの意見が出た。